

第13回 文化・産業のまち部会 会議録

1 開催日 平成29年6月21日（水）

2 場所 新見市役所南庁舎 会議室3A

3 出席状況 出席8名

部会長	森田 寿	出席	副部会長	水地 秀壽	出席
委員	森岡 繁信	出席	委員	今田 一成	出席
委員	三上 雄二	出席	委員	多賀 紀征	出席
委員	逸見 孝明	出席	委員	田原 裕之	出席

4 事務局出席者

総務部協働推進課 1名

5 傍聴者

なし

6 議事内容

1 開会

2 あいさつ

○部会長挨拶

3 協議

○「農林水産業におけるブランド力の向上」について、意見交換を行った。

- ・個人としてではなく、生産組合など組織化を進め、生産者として新規参入しやすい環境づくりが大事である。個人での投資は難しい。
- ・個人が新規参入するには、家が一軒建つくらの投資が必要となる。収入や休暇が安定することや、冬の閑散期の対応などを考えると、組合組織化することが大事である。
- ・道の駅やアンテナショップがあるといい。近年DIYがはやっており、生活の中で木材が広く役に立っている事をPRすることや、ネーミングも大事である。
- ・温暖化に適応する作物（パパイアなど）を導入することや、高品質を保つことが大事である。

- ・ 林業については、子供を対象とした「山の学校」などの取組が効果的ではないか。
- ・ 終戦から昭和30年代は「黒いもの（牛、木炭、蒸気機関車）なら新見においで」と言われるほど、農林水産業が元気な時代だったが、現在では生産意欲が低下している状況である。
- ・ 新作物や新品種、技術、流通、販売、農地の賃貸など、生産者、JA、行政が連携した研究開発機関の設置や、市外からの新規就農者のみでなく家業を継ぐ場合の手当の充実、ブランド力を高めるため統一した品質を確保することなどが重要である。
- ・ 人口動態を見ると3月の転出者が多い。引き留めるには農林業に従事してもらう事が大事だが、市外からの新規就農者への支援策だけ手厚いのが問題である。
- ・ ピオーネについては県内どこでも品質に差異が無くなってきた。糖度は大事だがヘルシーであることも大事である。医師推薦のような物を考えてみてはどうか。安全でおいしくて安価であることも大事である。
- ・ 新見市のブランドといえば千屋牛、ピオーネ、あしん源流米など様々ある。徹底した消費者ニーズの洗い出しと、健全な企業間競争による品質向上やコストダウンを達成させるべく、官民一体となった取組が望まれる。
- ・ 全国規模の品評会や共進会に進出する機会を追求してもらいたい。
- ・ ピオーネ、トマト、桃、リンドウ、千屋牛の5作物で各部会が組織され、生産者、JA、行政が連携しているが、若者の参画が大事である。
- ・ 主役は生産者であり市民であるということを意識し、JAや行政はサポート役に徹することが必要であるとともに、各組織間での連絡調整役を担う人材が重要である。
- ・ 農業生産法人として米作りをしているが、自分の利益は最後に得るという姿勢のリーダーでなければうまくいかない。
- ・ 生産性を考えれば会社組織化がいいと思う。千屋牛でももっとPRをうまくやらないといけない。
- ・ 自分が何をしたいのかはつきり目標を定めている人たちがいて、その方を応援できる体制が大事である。